



能代のまちに いい風が吹いている

佐藤 香蓮

(能代市地域おこし協力隊)

1 協力隊になるきっかけ

私は秋田市出身で、夫との結婚を機に協力隊として能代市に移住しました。秋田市と能代市で二拠点生活をしようと考えていたところ、新型コロナウイルスが流行りだし、当時勤めていたヨガ教室では正社員として続けるか辞めるかの選択をしなければいけなくなりました。その時に協力隊という仕事を知り、高校卒業時に地元がつまらないと言って県外に出ていく友人をみて寂しい気持ちがあり、また、地元のために何かできないかな〜とぼんやり考えていた気持ちを思い出し、協力隊を通して秋田で何かできるかもしれないと応募しました。担当は中心市街地活性化で、商店街のイベントのサポートや空き店舗の利活用、情報発信などから、中心地の賑わいづくりにつなげることがミッションです。3年の活動は思ったよりも早く、2023年10月で退任になります。

2 能代のまちの雰囲気

能代に来た時は、ちょうど空き店舗だった旧酒屋「丸彦商店」をリノベーションするマルヒコプロジェクトがはじまったところでした。県事業「動き出す商店街プロジェクト」で、市内の若手経営者4人のメンバーが立ち上げたまちづくり会社「のしろ家守舎」をはじめとして、たくさんの地域の人たちが自分たちのまちを楽しもうと動き出していました。さらに、いつも前向きに背中を押してくれる市職員の方々に困

まれ、おかげさまで私は恵まれた環境で活動させてもらいました。それぞれ立場は違えど、自分たちがどんなまちでどのように暮らしたいか、それを実現するためにみんなで動いている感覚がありました。そして、それに感化され「わたしも何かやってみたい」とマルヒコに集まる人が少しずつ増えていて…今、能代のまちにはいい風が吹いています。

3 コロナ禍でも諦めない

コロナ禍ではじまった協力隊活動は、イベントを開催することにもかなり慎重で、関わった企画が何度か新型コロナウイルスを理由に中止になったこともあり悔しい思いもしました。ご縁があり能代で結婚をしたので、「嫁見祭り」(新妻たちが良縁に感謝し末永い幸せを神社にお参りする行事)に参加予定でしたが、そちらもやむなく中止になりました(お参りには行きましたが)。



(お参り時の写真)

コロナ禍でも、感染予防対策に気をつけながら諦めずイベント準備・開催をしてきましたが、その中でも、能代駅前商店会主催で駅前・畠町

の大通りを歩行者天国にして開催した「のしろいち」は、想像以上の来場者があり、能代に来て一番のまちの賑わいを感じることができました。普段、抑圧された空気感が漂う中、その日はマスクをしていますが、来場者の方々の笑顔が十分に伝わってきました。



(「のしろいち」の様子)



(「のしろいち」の関係者と)

4 これまでずっと続けていること

協力隊になってからずっと続けていることは、SNSでの情報発信です。ほぼ毎日、自分が実際に食べて本当に美味しいと思ったお店や関わっているイベント、面白いと思った能代での暮らしを発信しています。

情報発信をしようと思った理由は、二つあります。一つは、自分が能代に移住するときにネットで調べても古い情報ばかりだったからです。二つ目は、神奈川から移住して能代で楽しそうに暮らす夫を見て「秋田って楽しいんだ！」と自信を持てたからです。地元の人には当たり前過ぎて、見過ごしていたことも、誰かが「それは

当たり前じゃないんだよ!」、「これってすごいんだよ!」と言うことで、地元の良さを再認識することができます。まずは自分が地域を楽しんでそれを発信することが大事だと思いました。

3年目になり発信を通じて、イベントに参加してくれる方がいたり、紹介した飲食店に市外からお客さんが食べに来たり、「能代っていつも面白そうだね!」とSNSを見ている人から言ってもらえることが増えて本当に嬉しいです。能代には面白いことがいっぱいあり、面白い人もたくさんいるので、地域外の伝わりきっていない層に向けて情報を届けていきたいです。

5 これから始めること

そして、今年3年目の最後には「のしろ会議」というトークライブ&パーティを企画しています。さまざまな職業や年代の地域の人たちにゲストスピーカーとして自分の人生や活動を7分で話してもらい、その後は7分では語りきれないストーリーを聞いたり交流できる場です。

参考に行っている東京都豊島区各所で開催されている「としま会議」では、そこで話をした人のお店に行ったり活動に参加したり、そこで出会った人たちがコラボレーションしてイベントやプロジェクト、お店などが立ち上がったそうです。

コロナ禍、能代にはたくさんの面白い人がいるのに、人との交流の場が制限されていました。この数年間はそれぞれが自分と向き合い、栄養を蓄え土の中でじっと待つような時期だったのだと思います。この「のしろ会議」で、地域の財産であるまちの人たちを再び掘り起こしていきたいです。畑を耕し、新しい空気を入れ、養分が増え、苗が成長するように、さらに人やまちが成長できる場になるはず。だって、能代のまちにはいい風が吹いているから。